

第4回 千歳市景観計画検討会議 議事概要

日 時：令和3年2月22日（月）15：00～16：00

場 所：千歳市役所4階会議室10（Web会議と対面会議の併用）

出席者（対面）：

小林座長、廣島副座長、瓜生委員、山口委員、
（事務局）
企画部まちづくり推進課長、教育委員会教育部埋蔵文化財センター長
企画部まちづくり推進課都市計画係長 ほか2名
株式会社KITABA 酒本氏、松田氏

出席者（Web）：

伊藤委員、斉藤委員、安田委員、南雲委員、曙委員、北原委員、村中委員

欠席者：小野委員

傍聴者：0名

1．開会

2．座長挨拶

3．議事

【検討事項】

「千歳市景観計画（素案）」の報告

上記の検討事項について、事務局案のとおり進めていくことを確認した。
本検討会議をもって、「千歳市景観計画」の検討を終了することを確認した。
最終調整を行った「千歳市景観計画（素案）」を報告することを確認した。

議事内容

○ 千歳市景観計画（素案）の報告について

（事務局）

会議資料を基に、第3回検討会議における委員からの意見に対する回答・対応について説明。

（座 長）

事務局より説明のあった内容について、何かご意見があれば発言願いたい。

（委 員）

特になし。

（座 長）

事務局で作成した「千歳市景観計画（素案）」について、改めて読み返すと、文章の校正など気になる点は多々あるが、これからの推敲に期待したい。

○ 全体質疑

（座 長）

これまでの活動全般について、何かご意見等があれば発言願いたい。

（景観アドバイザー）

これまで千歳市はウェルカム花ロード等の話など、計画の内容以外の事項について様々な取り組みを行ってきており、今後も景観計画と並行してさらに取り組みを進めていくと思う。

それらの要素に加え、今回は史跡キウス周堤墓群に関する歴史的な視点を組み込みながら、どのように景観形成を進めていくかを考え、計画を作成してきたと思う。

しかし、「千歳市景観計画（素案）」を見ると、史跡キウス周堤墓群の保全と活用について、様々な項目から読み取ることができるものの、前面に出ているものではなく、具体的な内容が浮かび上がってきていないように感じる。

今後の保留事項でも良いが、これから史跡キウス周堤墓群の保全について推進していく内容が見えるような記載とするよう検討しては如何か。

史跡キウス周堤墓群の世界遺産登録についてはこれからのことであるので、まずは千歳市全体の景観づくりについて語らなければならないことは理解しているが、世界遺産登録を目指しているのであれば、もう少し目立つように記載するよう検討すると良いと思う。

また、史跡キウス周堤墓群と他の「北海道・北東北の縄文遺跡群」との関連性などについても記載すると、より明確なものとなると思う。

（事務局）

史跡キウス周堤墓群については、現在世界遺産登録を目指して取り組みを進めているところであるので、史跡キウス周堤墓群の保存・活用についての具体的な計画は、これから進めていくものである。

他の市町との計画と併せながら、今後検討を進めて参りたい。

（委 員）

意見聴取の回答をまとめた資料を確認したが、様々な意見がある中、このような形にまとめるのは大変であったと思う。

景観計画については、概ね作成できたが、「景観」については、どこまで議論を進めても100%のものとすることは大変難しいものであると思う。

景観計画が策定された後、これからどのように熟成させていくかが重要であると思うので、今後千歳市の良好な景観づくりへ向けた取り組みができれば良いと思う。

（座 長）

今回の各意見を取りまとめた資料を見て、景観づくりには多くのステークホルダーが関わっていることを再認識した。

委員からご発言があったとおり、「景観」に関するものは、初めから完璧なものを作成するのは大変難しいと思う。

今後史跡キウス周堤墓群が世界遺産に登録されることを想定すると、千歳市を取り巻く状況も変化していくことが予想される。

そのようなことを踏まえると、本件については、今後も継続的な検討が必要であると思う。

○ 今後の進め方について

（事務局から、資料に沿って以下について説明。）

- ・ 今後の本検討会議への報告について
- ・ 千歳市景観計画策定までの今後の流れについて
- ・ 本検討会議の千歳市景観審議会への移行について

（座 長）

事務局より説明のあった内容について、何かご意見等があれば発言願いたい。

（委 員）

特になし。

（座 長）

事務局の説明で、今後最終案の報告の機会が設けられるとのことであるので、素案の内容については、事務局で調整を進めてもらいたい。

また、千歳市景観審議会の設置により、今後も千歳市の景観づくりについて、検討する場が設けられるとのことであるので、今後も継続的に景観づくりに関する議論を進めて行きたいと考えている。

以 上